

平成25年度病虫害発生予報第3号(6月予報)

<お知らせ> ウリ科野菜を加害するアシビロヘリカメムシに関するコラムがあります(13ページ参照)。

今月のトピックス

アリモドキゾウムシ (カンショ)

学名 : *Cylas formicarius*

成虫



卵



幼虫



蛹



被害塊根(イモ)



生態と被害

本種は、カンショの最も重要な害虫である。世界の熱帯・亜熱帯地域に広く分布し、国内では、トカラ列島以南の南西諸島および小笠原諸島に分布する。成虫は体長6～7mm。胸部と脚は赤褐色、鞘翅は青～暗緑色で、全身金属光沢がある。27℃条件下では、塊根への産卵から成虫の脱出までの発育日数は約40日。沖縄では年約4世代経過し、周年発生する。卵～蛹はカンショの他に、エンサイやアサガオなどのヒルガオ科の植物体内に寄生する。本種に加害されたカンショは苦味と悪臭が生じ、食用、加工用および飼料用としても利用できない。被害が深刻なことから、植物防疫法により発生地から未発生地への移動が制限されている。

久米島では、不妊虫放飼、寄主植物除去、フェロモン誘殺および移動規制により、2013年4月22日に根絶を達成した。今後、再侵入を防ぐにあたり、生の寄主植物を持ち込まないよう、県民、観光客等の協力が求められる。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>